

言葉かけ（基礎編 2）

難聴児であろうと健聴児であろうと、子どもの言葉は急速に発達するものではなく、生まれたときから絶え間なく言葉をかけられた結果により、理解がすすみ、自らお話ができるようになるのです。

しかし、言葉の理解や表出を効率的に促す上では、いくつかの具体的な方法があげられます。「言葉かけ（基礎編 2）」では言葉かけの具体的な方法についてご紹介いたします。これらを参考にして、意識的に言葉かけをしていきましょう。



1. お世話をしながら話しかける

- パンツをはかせながら

◇ 「はけるかなー」「右足、左足」「はーい、はけたよ」

2. 体の動きに合わせて話しかける

- ご飯を食べさせながら

◇ 「お口あけて、あーん」「ごはん、おいしいね、もぐもぐもぐ」

3. 実際の音をまねて言葉にする・ようすを表す言葉をたくさん使う

- お子さんにボールを転がしながら

◇ 「いくよー、コロコロコロー」

◇ ようすを表す言葉は繰り返しが多くリズム感があるので、聴きやすく、覚えやすく、まねしやすいのです。

4. あいさつも大切な言葉かけ

- あいさつは親御さんが周囲の人がしていれば、お子さんも自然に覚えます。

◇ 「〇ちゃん、おはよう」「パパ、いってらっしゃい、バイバーイ」

5. 動作の始めや終わりに言葉をかけて区切りをつける

- 食事の前に

◇ 「さあ、お片づけしよう。ご飯だよ。」

◇ 頭の中で区切りをつけて行動していくことは、自立への第一歩です。

6. 子どもの興味に合わせて声をかける

- お子さんが今、興味を持っていることについて言葉かけをしてあげましょう。興味を共有することが大切です。

7. 子どもの行動をそのまま真似る（ミラリング）

- お子さんのとった行動に親御さんが「なに、それ」と言ったり無視したりする
とがっかりしますが、真似してもらうとうれしいのです。反応があって面白い
から、「またやろう！」と思います。お話ししようとする気持ちの始まりです。

8. 子どもの出す声や音をそのまま真似る（モニタリング）

- 何かを発見し、「ああっ！」とお子さんはビックリしたように言います。その
時に親御さんも「ああっ！」と同じ語調で言ってあげます。お子さんにとって
は何でも一つが新しい発見です。喜びに満ちた発見に付き合ってください。

9. 子どもの行動や気持ちをかわりに言葉に表す（パラレル・トーク）

- お子さんの気持ちを言葉にしてあげると、お子さんはすぐに安心します。安心
できることはお子さんが成長する上でとても大切なことです。
◇ 自転車が倒れた時：「ガタンで倒れちゃったね」「びっくりしたね」

10. 大人が自分の行動や気持ちを口に出して言う（セルフトーク）

- 親御さん自身の気持ちを口に出して言うのはストレス解消にもなります。育児
ストレスは毎日の生活の中で小出しにしましょう。
◇ 「あーあ、疲れちゃった」「何もしたくないなー」

11. 子どもの間違いをさりげなく正しく言い直して返す。（リフレクティング）

- お子さんの「発音」や「言葉」を直すのではなく、さりげなく正しい発音や言
葉を聴かせるようにしましょう。
◇ 子ども「バンバン」 親「ワンワンだね」
◇ 子ども「さむい」 親「冷たいね」

12. 言葉の意味や文法を広げて返す（エクспанション）

- お子さんの発した言葉や行動を広げてあげます。
◇ 子ども「おとと、おとと」 親：「お外、行きたいね」
◇ 子ども「あーっ！」（指差し） 親：「ブーン、飛行機が飛んでるね」

13. 子どもの会話のモデルを示す（モデリング）

- お子さんの言いたいことをきちんと正しい文章にしてあげます。それを聞きな
がらだんだん文章の構造が分かっていきます。
◇ 子ども：「じいじ、ちわ」 親：「じいじのお家に行こうね」「じいじにこん
にちはってしようね」



参考文献：「ことばの遅い子—1・2・3歳」 中川信子著 ぶどう社